

正しく使えば安全・便利、取扱いを間違えば危険につながる「スプレー缶」について、情報をお送りします。

安全で安心な暮らしをサポート！
火災予防に関する様々な情報をお届けします。

いざ！防災

—使える防災情報コラム—

スプレー缶について

私たちの生活には様々な場面でスプレー缶が使われています。卓上用カセットコンロで使うLPガスのカセットボンベ、殺虫スプレーや消臭スプレー、ヘアスプレーなどその種類は多岐に渡ります。これらのスプレー缶は便利な反面、使い方や処分方法を誤ると火災につながる恐れがあります。

スプレー缶の危険性

スプレー缶はその噴射剤にLPガスなどの可燃性ガスを使用しているものがほとんどです。LPガスの主成分になっているプロパンは引火点（他の火源を近づけた時に燃焼を始める温度）が約-100℃と極めて低く、近くに火気があれば引火し爆発する危険性がとても大きい物質です。

管内においても過去にスプレー缶が起因する火災が発生しており、そのほとんどはスプレー缶のガス抜き中に発生しています。



スプレー缶等が関連する火災統計

スプレー缶が関係する火災事例

case. 1

ガス抜き中に出火

スプレー缶を処分するため屋内で缶に穴をあけてガス抜きをしていたところ、近くで使用していたガスコンロの火で引火し火災となった。

本人（80代男性）は火災により救急搬送され、入院が必要なやけどを負った。

case. 2

ごみ収集車から出火

不燃ごみの中にガス抜きのされていないスプレー缶が混ざっており、ゴミ収集車のごみを取り込むための回転板に挟まれた際の衝撃火花で引火し火災になった。

case. 3

ファンヒーターの熱で出火

脱衣室の棚に収納していた消臭スプレーが地震の影響で棚から落ちて、部屋を暖めるために使用していた石油ファンヒーターの前に転がり、温風で熱せられた結果、爆発した。

事故を防ぐために

私たち一人ひとりがスプレー缶を正しく取り扱うことで、事故を防ぐことができます。保管、使用、廃棄の3ステップで確認しましょう。

保管

- ・キャップを確実に締める
- ・直射日光のあたる場所や高温多湿となる場所を避けて保管する

使用

- ・各メーカーの注意事項に必ず従って使用する
- ・コンロなど火気の近くでは使用しない
- ・スプレー缶の使用時はガスが滞留しないように、窓を開けるなど十分に換気する

廃棄

- ・各自治体で決められた処分方法を確認して廃棄する
- ・スプレー缶のガス抜きをする際は屋外の風通しの良い場所で行う

火災実験動画

火災実験動画を公開中

ぜひチェックしてみよう！

